

博報財団 第13回「博報日本研究フェローシップ」成果報告書

I. 研究成果概要

氏名(フリガナ)	SHEVTSOVA Galyna(シェフツォバ ガリーナ)
在住国名	ウクライナ
所属・役職	キエフ国立建設・建築大学 建築学部、建築基礎とデザイン学科教授
招聘回(招聘研究期間)	第13回 (2018年9月1日～2019年8月31日)
受入機関	京都大学
招聘研究テーマ	日本の歴史的なまちの再開発における経験:ウクライナでの活用
研究目的	日本の歴史的なまち・むらの再開発事例に係る、成功と失敗の要因を明らかにすること。また本研究で得た知見を、後にウクライナで活用すること

研究成果概要

1. どのように研究を進めたか(具体的に)

今回、現場で行う研究に注目し、日本の歴史的なまち・むらの再開発・活性化の代表例(金沢、萩、奄美、近江八幡、鞆の浦、尾道など)における実地調査を行った。具体的には、まち・むらの歴史的な性格や背景、それに関係するまちの活性化要因の現状を調査した。主な研究方法は、再開発・活性化活動の関係者へのインタビューと意見交換、また、現地に係る資料の調査及び現地の実態調査である。続いて、得た情報を分析・評価し結論を導いた。

2. 研究によりどのような知見が得られたか(具体的に)

日本歴史的なまち・むらの再開発や活性化の活動を分析した結果、絶対の「成功のレシピ」はないと結論できる。まち・むらの基礎条件とその地域の課題によって、あるまちのために成功したアプローチや方法は、別のまちでは失敗に導く可能性がある。明らかになったポイントは以下の通りである。

- ✿ 再開発・活性化に係る参加者の構成に成功が依存する
- ✿ 現在、再開発・活性化において中心的役割を担う参加者の割合は、まちの歴史的な性格に依存する
- ✿ 再開発・活性化のアプローチを選ぶため、歴史的なまち・むらの重要な基礎条件
- ✿ より効果的な再開発・活性化に導くアプローチ

以上のポイントから、ある事例における再開発・活性化のため、適切な総合戦略を判断できる

3. 研究成果(予定を含む)

○論文(題目, 掲載誌, 発行者, 掲載月, 内容の概略(200字以内))

- ✿ **現在日本歴史的なまちの再開発の創造戦略 // 現代世界建築・ロシア建築アカデミー・2018/22。**

金沢及び萩に係る研究事例について、日本歴史的なまち・むらの再開発・活性化の創造戦略の実録と分析。

- ✿ **日本歴史的なまちの性格と現在の再開発過程への影響 // 現代世界建築・ロシア建築アカデミー・2019/11。**

金沢、萩、近江八幡、鞆の浦、尾道などの事例について、日本まちの歴史的な性格(指導者について)を分析した。現代のまちの再開発過程の中心となる参加者はそれに依存するという結論に至った。武士の城下町の場合、現在においても活性化を行政が主導するケースが多い。歴史的な商人・港町の場合では、現在の活性化においてコミュニティーや個人の力が中心となる。一方で、両者が組み合わさった事例も存在する。

- ✿ **歴史的なまち・むらの再開発のための重要な基礎条件とより効果的なアプローチ // 建築誌・キエフ国立建設・建築大学・2019/12。**

金沢、萩、奄美、近江八幡、鞆の浦、尾道などの日本で研究した事例に基づいて、歴史的なまち・むらの再開発のために重要な基礎条件とより効果的なアプローチについて研究。

○口頭発表(題目, イベントの名称, 日・場所, 内容の概略(200字以内))

- ✿ **日本の歴史的なまちの再開発に係る創造戦略(金沢と萩の事例) / 「Kyoto Asian Studies Group」の発表会・18。**

01. 2019・同志社大学、京都。

日本の歴史的なまちの再開発に係る創造戦略について(金沢と萩の事例)。

✿再開発のための重要な基礎条件とより効果的なアプローチ(日本での研究事例に基づく)/研究発表・24日9月
2019年・キエフ建設建築大学、ウクライナ。

日本で研究した歴史的なまちの再開発事例を解説すること。その結果に基づく、再開発のための重要な基礎条件とより効果的なアプローチについての発表。

✿日本歴史的なまちの性格とその現代の再開発過程への影響/「現代世界建築の基本発展ベクター」の学会・7-

8. 10. 2019・建築・都市計画の研究所、モスクワ、ロシア。

日本のまちの歴史的な性格と、それが現在の再開発過程に与える影響を明らかにすること(日本の事例に基づく)。

✿日本での研究した経験に基づく、ウクライナのクリボリーヴニャ村の活性化プロジェクト/「教育・記憶・都市」の学会・
27日10月2019年・リヴィウ工業大学、ウクライナ。

日本の歴史的なまち・むらの再開発・活性化事例の研究結果に基づき、ウクライナのクリボリーヴニャ村の活性化プロジェクトについてのプレゼンテーション。

✿日本の歴史的なまち・むらにおける再開発の経験。ウクライナでの活用/発表と写真展・29日10月2019年・キエフ
建築図書館・ウクライナ。

日本で研究した、歴史的なまち・むらの再開発・活性化についての経験と、そのウクライナでの活用の可能性について。

✿日本の歴史的な小さなまち・むらにおける活性化の経験/講演会・11月2019年に予定・ウクライナ日本センター、キエフ工業大学。

日本で研究した歴史的なまち・むらの再開発・活性化の事例について。

✿歴史的なまち・むらを再開発する総合戦略:設定のために重要な基礎条件とより効果的なアプローチ/研究発表・1
月2020年ぐらいに予定・京都大学。

歴史的なまち・むらの再開発の総合戦略を設定するための重要な基礎条件と、より効果的なアプローチの決定について。

○その他の活動

✿「創立都市政策セミナーin 金沢市」に参加

✿「第9回金沢学会 2018」に参加

✿「東アジア文化都市 2018 金沢」国際シンポジウムに参加

✿「森里海連環の理論と実践」(近江八幡実習)2019 という京都大学のプロジェクトに参加

4. 今後の活動予定

日本で研究した成果の大部分は、ウクライナにおける歴史的なまちの再開発や活性化のために活用できると考える。その他、研究結果を広く伝えることや、教育現場で活用することを予定している。

一番近いプロジェクトとして、ウクライナのクリボリーヴニャ村の活性化に参加し、「創造都市・農村」というUNESCO のプログラムへの登録に向けた活動が始まる。